

梯久美子 優秀審査員賞

(東京都荒川区)

本沢 政子

兄ちゃんへ

兄ちゃん。お母さんと暮してくれてありがとう。

私には、いつまで経っても親孝行出来そうにありません。東京に出て来て三年、私も五十五歳です。女一人のパート生活、想像以上に大変です。給料の半分が家賃に消えてしまいます。でも安心してね、毎日を充実して生活してるから幸せですよ。こんな暮しが出来るのも、兄ちゃんのお陰だといつも感謝しています。本当にありがとう。

連休に帰った時に、兄ちゃんの気持ちを知ることが出来て、私とてもうれしかったんだ。

お母さんとお鮎でも、と思い少々値の張る種を注文したけど、噛み切れなくて吐き出してしまったの。海苔も食べられなかった。私、お母さんの歯が以前よりも弱くなっていること、全く知らなかった。娘として恥ずかしくったよ。

お母さんに、身の回り品を買ってあげたり、美味しい物を食べてもらうことが親孝行だと、自己満足していた。それに気付いたのは、兄ちゃんに仕度してもらった朝食の時でした。

「早く取ってくれ」と言ってお皿を置き、私取るが早いかお母さんの前に、お皿を戻しました。それはお母さんが手を伸ばさなくてもいいようにだったんだよね。また、漬物がみじん切りになっていたり、もやしの間も丁寧に取ってありました。

いつも兄ちゃんと、口喧嘩ばかりしてるからお母さん、かわいそうだと思ってたけど、兄ちゃんが一番、お母さんのこと知っているし、心配してくれているんだよね。

子供の頃、末っ子の私をかわいがって育ててくれたお母さん。どんな時にも私の味方をしてくれたお母さん。それなのに私、何も恩返し出来ていない。気持ちはあっても実行出来ない自分が歯痒くて仕方ありません。そんな妹を察して下さい。

兄ちゃん。ごめんね、そしてありがとう。